

山里小を 調べて

- ・爆心地から北へ約700mに位置する
- ・鉄筋コンクリート3階建ての「コ」の形
- ・北側の校舎1.2階全焼された
- ・当時は学校は夏休みで自動の多くが自宅で亡くなられたと思われる。
- ・山里小に保存されている戦争当時の防空壕。この中で先生が亡くなった。
- ・山里小は今、長崎市立山里小学校は、1874年に設立された小学校で、2024年度には150周年を迎えます
- ・熱戦や放射線を浴びて負傷した教職員や自動、付近の人々が防空壕へ避難したが多くの人々がこの中で亡くなった。

- ・爆心地から北へ700mに位置する
- ・北側の1,2階を残し、のこりはすべて全焼した
- ・爆発した当時は、1500人いた生徒や教員は爆発した後、1300人がなくなって200人しか残っていない
- ・爆発した後、約2ヶ月で授業は再開、その出来事をもう忘れないためにひばく児童によるしゅき『原子雲の下を生きて』（永井隆さん編）やそれにもとづく、短編映画『長崎の子』が作られました。
- ・

- ・校長以下職員26人、用務員2人が死亡し、生存者はわずか4人
教職員計28名が犠牲となりました。
- ・児童約1300人が命を落とした
- ・9日で多くの児童職員を失った10月1日登校したのはわずか100人余りかつての10分の1にも満たなかった

調査によると、在籍児童数1,581人（昭和20年6月30日現在）のうち、およそ約1,300人が自宅やその周辺で死亡したと推定されています。

調査によると、在籍児童数1,581人（昭和20年6月30日現在）のうち、およそ約1,300人が自宅やその周辺で死亡したと推定されています。

戦時中、グラウンドの東側と北側の崖に空襲から命を守るため、全部で20カ所余りの防空壕が掘られ避難場所になっていました。

原爆投下当日、新し防空壕を掘る作業をしていた先生方や近所の人たちがこの崖にたたきつけられ防空壕の中外で亡くなりました。熱線や放射線、爆風を受け負傷した人々がこの防空壕に避難したが、多くの方がこの中で亡くなっています。

現在三つの防空壕が、裏門石柱とともに残されています。

戦争がなくても平和ではない

平和を実現するためには

- 1.まず、あたりまえだと思っていたことが自分たちの平和だと気付いた。
- 2.そして、クラスが平和ではないときを考えた
 - ・仲間はずれや偏見、差別
- 3.なぜこういうことが起こるかを考えた
 - ・その人のことをよく知らないから

例えば自分と仲がいい人には差別や偏見、仲間はずれはしない。それは、相手のことをよく知っているから。
- 4.だから、差別や偏見、仲間はずれをなくすには、相手のことをよく知る。そのために自分たちが何をできるかを考えた
 - ・あいさつからはじめることはできる
 - ・話をよく聞くこともできる
 - ・自分から話しかかることもできる

などしたらどんどん話す機会がふえて相手のことをよく知れる。
そしたら差別や偏見、仲間はずれがなくなって、クラスが平和になる

平和ではない時

いやな思いをしたとき→いやだなと思っ
たり、つらくなった時のこと（あさひ）

いじめられたとき（颯真）

仲間はずれや
（りお）

悪口とか言われた時

みんなと遊べないとき

好きなものを食べられないとき 大潮

私たちの身近な平和

ご飯をたくさん食べているとき
みんなが楽しく遊べるとき

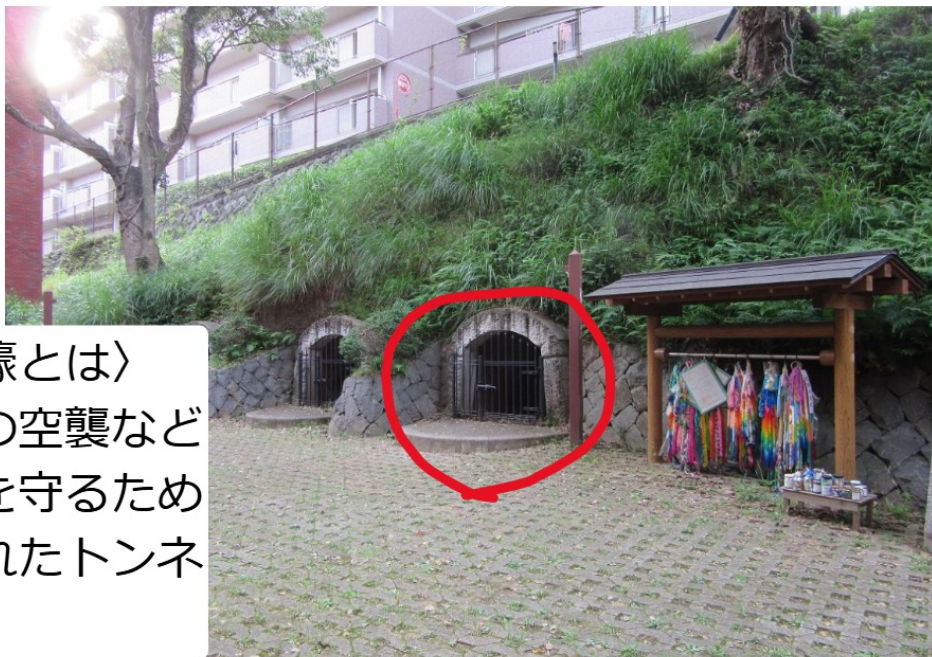
ごはんが好きに食べれること

みんなと遊んだり話したりして楽しいと
思える時

みんなが笑えて楽しいと思える時

写真

〈防空壕とは〉
戦時中の空襲など
から身を守るため
に作られたトンネ
ル



山里小学校 防空壕（ぼうくうごう） 戦争が終わった後の山里小周辺



鉄筋コンクリート3階建ての「コ」の形 戦争が終わった後の山里小の中

あの子らの碑（あのこらのひ）



- ・山里小学校の平和のための「あの子らの碑」です。この「あの子らの碑」は、山里小学校の子どもたち、先生方、そして永井隆博士の思いがひとつになってできた碑。
- ・山里小学校でも、1500人以上いた子どもたちのうち、1945年8月9日全体で1300人の命を失った。
- ・戦争に行かずに学校に残っていた先生方が32人いましたが、そのうちのほとんどの、28人が亡くなりました。



防空壕の中



あの子らの碑（あのこらのひ）



山里小学校を調べて

私たちは山里小学校について調べました。山里小学校は、爆心地から約700m離れているけど北側の校舎1.2階が全焼される。当時の学校は夏休みで児童の多くが自宅で亡くなっている。爆発した当時は、約1500人いた生徒や教員は爆発した後、約1300人がなくなって約200人しか残っていない。爆発した日から、約2ヶ月で授業は再開、そのような出来事をもう忘れないためにひばく児童によるその忘れられない体験や感想をかいた作品原子雲の下を生きて（永井隆さん編）やそれにもとづく、短編映画『長崎の子』が作られました。また、山里小学校の平和のために、「あのこらのひ」を永井隆さんが作りました。山里小学校の子どもたち、先生方、そして永井隆博士の思いがひとつになってできた碑。このように長崎の人たちは二度と原爆のことを忘れないようにそして、原爆で亡くなった人たちのことも忘れないように取り組んでいたのです。

このことから

そして僕たちは、山里小学校をしらべて自分たちにできる身近な平和について考えました。考えてみたらあたりまえだと思っていたことが自分たちの平和だと気付きました。例えば、友達と遊べることです。そこでクラスが平和じゃないときを考えました。そしたら仲間はずれや悪口を言われたときだと思いました。次になぜこのことが起きるかを考えました。そしたら、その人のことをよく知ろうとしていないからだと思いました。例えば、自分と仲がいい人には差別や仲間はずれはしません。それは、相手のことをよく知っているからです。また、相手のことをよく知ろうとするには話さないといけません。でも話すには話すきっかけが必要です。そして私たちは話すきっかけとしてあいさつが必要だと考えました。このことから、私たちは相手のことをよく知ろうとするためにあいさつをすることがクラスの平和につながると考えました。なので私たちは挨拶をしていこうとおもいます。

山里小学校をしらべて



爆心地から北へ約700mに
位置する

北側の校舎1.2階全焼され
た

あの子らの碑



山里小学校の平和のために、
「あの子らのひ」を永井隆さんが作り
ました。